

17. ひきこもりへの認識について（問45～問47）

問45 「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えをお持ちですか。

【あてはまるものをすべて】

（n=2,684）

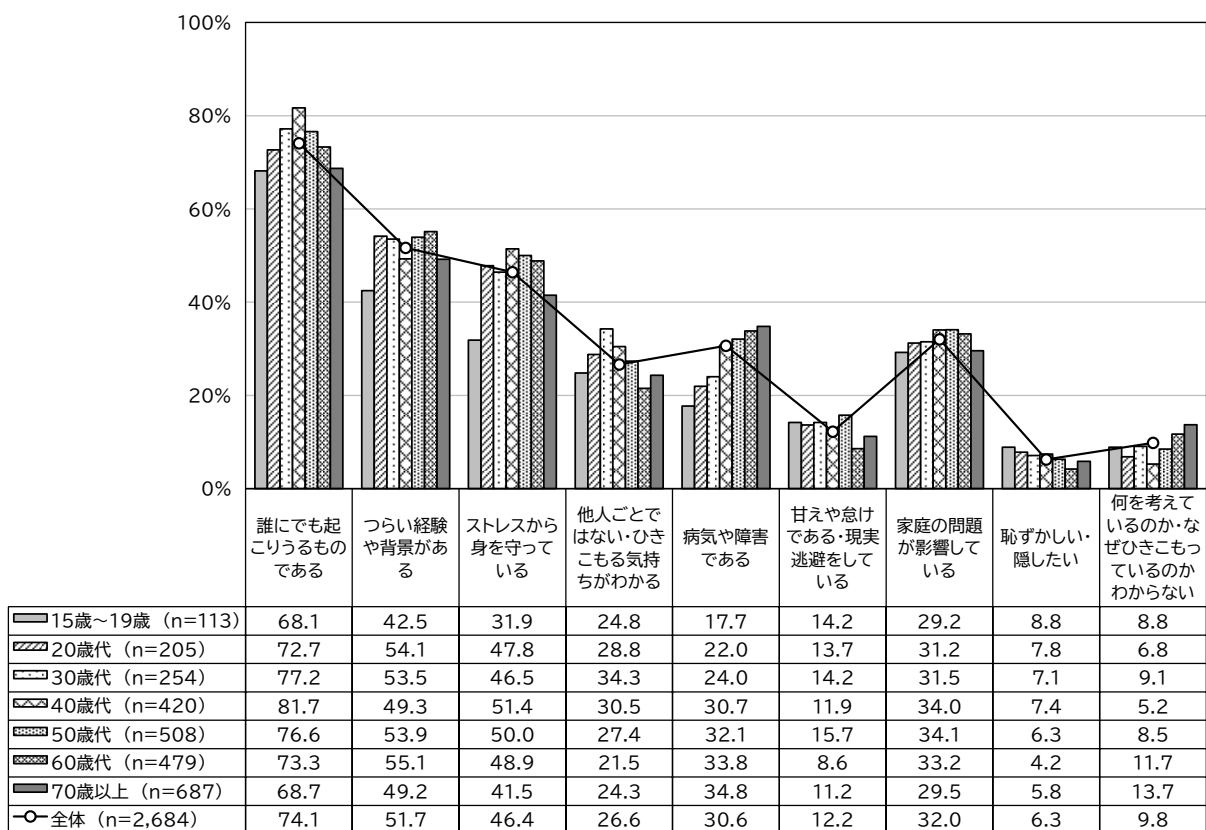
（1）全体的傾向

「誰にでも起こりうるものである」と回答した人の割合が74.1%と最も高くなっています。次いで「つらい経験や背景がある」が51.7%、「ストレスから身を守っている」が46.4%となっています。

（2）年代別にみた特性

すべての年代で、「誰にでも起こりうるものである」と回答した人の割合が68.1～81.7%と最も高くなっています。特に、20歳代から60歳代では7割を超えています。

また、「病気や障害である」と回答した人の割合は、年代が高くなるにつれて高くなる傾向にあります。



問46 もし、あなたやあなたの家族がひきこもり状態になったら、そのことを誰(どこ)に相談しますか。

【あてはまるものを3つまで】

(n=2,687)

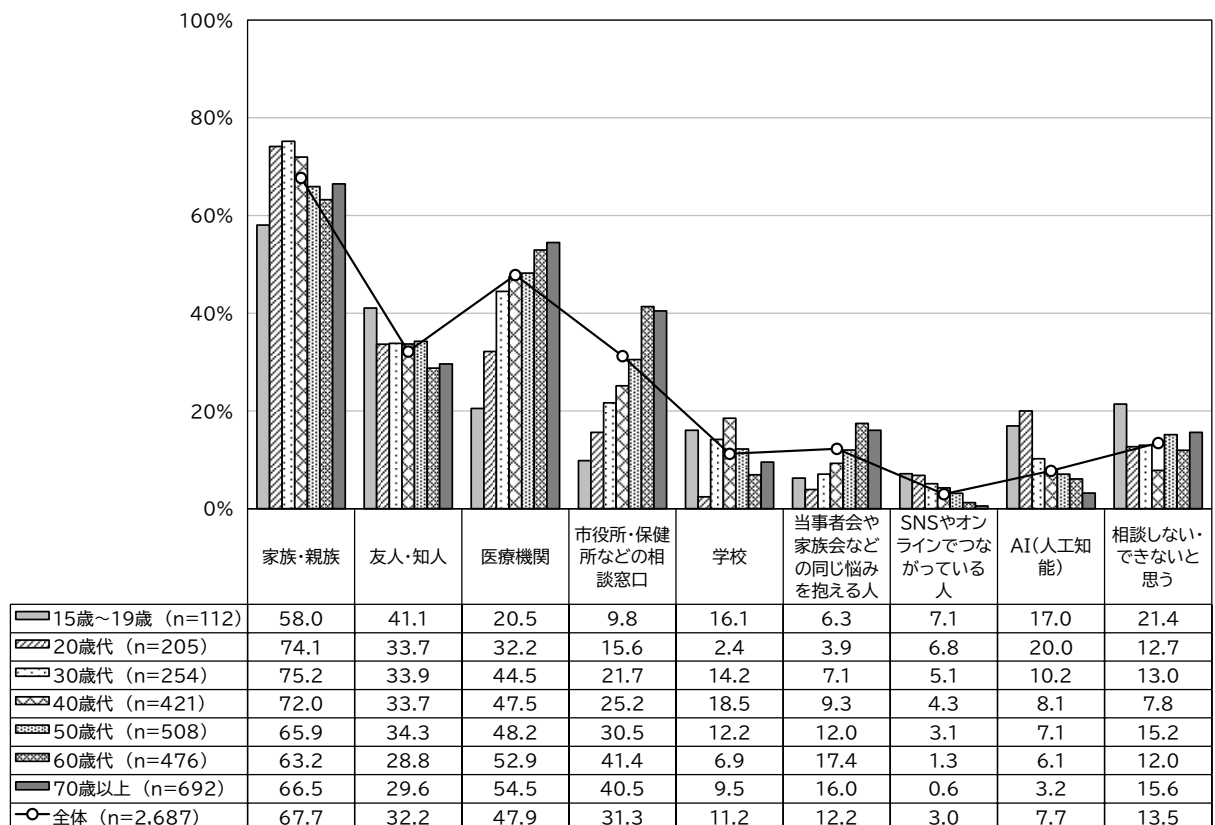
(1) 全体的傾向

「家族・親族」と回答した人の割合が67.7%と最も高くなっています。次いで「医療機関」が47.9%、「友人・知人」が32.2%となっています。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「家族・親族」と回答した人の割合が58.0～75.2%と最も高くなっています。

また、15歳～19歳では「友人・知人」が、30歳代以上では「医療機関」が、60歳代以上では「市役所・保健所などの相談窓口」が4割を超え、他の年代と比べて高くなっています。一方、「相談しない・できないと思う」と回答した人の割合は、全体では13.5%であり、15歳～19歳では21.4%と他の年代と比べて高くなっています。



問47 市がひきこもりの人やそのご家族への支援を進めるにあたり、どのようなサービスがあるといいと思いますか。

【あてはまるものを3つまで】

(n=2,679)

(1) 全体的傾向

「相談体制の充実（個別相談・心理相談など）」と回答した人の割合が 48.6%と最も高くなっています。次いで「相談窓口の明確化（ひきこもりに関する相談窓口情報の発信）」が 46.7%、「適切な支援機関の紹介」が 42.1%となっています。

(2) 年代別にみた特性

20 歳代と 50 歳代から 60 歳代で、「相談体制の充実（個別相談・心理相談など）」と回答した人の割合が 38.7%～55.0%と最も高くなっています。

また、40 歳代と 70 歳以上では、「相談窓口の明確化（ひきこもりに関する相談窓口情報の発信）」がそれぞれ 46.7%、56.4%と高くなっています。

一方、15 歳～19 歳と 30 歳代では、「居場所づくり（安心して過ごせる場づくり）」がそれぞれ 44.2%、44.1%と最も高くなっています。

